

(様式第4号)

上田市交流文化芸術センター運営検証委員会 会議概要

1 審議会名	上田市交流文化芸術センター運営検証委員会
2 日時	令和元年8月1日 午後2時00分から午後3時45分まで
3 会場	上田市交流文化芸術センター大ホールホワイエ
4 出席者	今井裕委員、岩木功委員、荻原康子委員、関和幸委員、竹田貴一委員、 仲道郁代委員、吉本光宏委員、渡辺弘委員
5 市側出席者	土屋市長、柳原政策企画部長、津村館長、久保田副館長、清水上田市立美術館長 小澤プロデューサー、掛川広報等係長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 4人
8 会議概要作成年月日	令和元年8月4日

協 議 事 項 等

1 開 会 (久保田副館長)
2 委嘱式 土屋市長から各委員へ委嘱書を交付
3 あいさつ (土屋市長)
4 委員・事務局自己紹介
5 協議事項 (1) 検証・検討の進め方について ・資料に沿い、津村館長から概要を説明 ・以降、質疑 (委 員) 本日配付された資料のほかに各回で追加資料が出てくるのか。追加資料の検討の時間が欲しいので、追加資料を早めに出せないか。 (事務局) 事前に配布できるよう検討する。また、気になる部分は委員から資料の請求をいただきたい。 (委 員) 報告書の意見のまとめ方の確認だが、基本的には意見の集約を目指し、そのうえで意見が分かれたものは併記するというのでよいか。 (事務局) はい。 (2) 施設概要、運営状況全般について ・資料に沿い、久保田副館長から概要を説明 ・以降、協議 (委 員) 事業運営評価調査業務報告書は市としてどのように受け止めているか。 (事務局) 報告書をみると当初想定した事業が概ね行われ、サントミュージゼに対する市民の評判は概ね良いと受け止めている。また、果たしている機能、役割は大きいと感じている、稼働率が高いこと、当初のシミュレーションに比べ費用が掛かっている点、使用料が安く収入が低い点などが課題と感じている。 (委 員) この報告書とこれから行われる検証との関係は。 (事務局) 報告書は事業の内容が当初のミッションに対して果たせたかどうか評価を行ったもので、果たせたとして、その内容や予算が上田に適合しているのかということを検証、検討いただく委員会と考えている。

(委員) この委員会で費用対効果の検討をやらなければならないと考えている。だれもがたくさん費用をかけて文化活動活発にして地域を盛り上げていくことが必要だということは共通認識として当然のことだと思う。そうではなくて、本当に費用対効果がある金額なのかどうかをやらなければならないと思う。その前段の話は必要ない、かなりの資料が必要だと思う、費用対効果の検証できる資料を出してほしい。

(事務局) 今私たちが行おうとしているのは文化、芸術分野の中でのミッションなので、文化としての費用対効果も含め考えれば、市全体として文化というものが上田に必要なのかということも含めて検証しないといけない。費用の部分も重要だが、ミッションとして進めてきたこと、それがどう有効に果たせているかのご意見、そこも費用対効果なのでご意見をお聞かせいただきたい。

(委員) 費用対効果をどう見るのかはなかなか難しい、最近はこのような評価もすべて金額換算する手法もある。サントミュージゼの場合は育成が最も重視されており、芸術家ふれあい事業を極めて手厚く行い、子どもたちがその現場でいろいろなものを学び取っている。それを先生が観察し、様々な形で報告されている。ある一人の子どもが感じ取ったものを費用対効果で数字に置き換えることは極めて難しい、仮に何かの仮説を立てたとしてもそれが論理的かつ客観的に数字になるかという非常に難しい面があると言わざるを得ない。その中で、先生のコメントやアンケートなどのいわゆる定性的な部分をこの調査の中では拾い上げて、サントミュージゼが注力している育成の効果として出していることはご理解いただきたい。

(委員) 国会議員の音楽議員連盟と音楽家のシンポジウムがあり、議員に税金を使って事業をやるからには、どれだけ効果があるかを示さないといけないと数字で示すよう言われたが、その議員のお子さんに、こういったことをもっと経験させたい、感性を育ててもらいたいと、かける費用についてそれが将来的に何パーセント自分たちの家族へ還元されるかと、その割合を数字で考える人が世の中にいないのではと思う。国でも文化をどのように評価していくかを議論されているが、難しいので今は試行錯誤している段階。もし今費用対効果の検証を行うとしたら、安易に行ってはいけないと思う。深く様々な見地から検討していかなくてはならないので。この5回の委員会の中で、出せるかという難しいという気がする。報告書の説明を聞いて、全国の公立会館では皆さん大変で心を病んでやめる人が続出している中、これだけの事業量をこの職員数で行っているということが驚くべきことと思った。専門性を有する事業をこれだけの回数のアウトリーチとかの活動をこの人数でどうやってやっているのだろう、と思うくらい全国的に見てもかなり優秀なチームがここは動いているんだと思う。一人の職員に対する費用対効果は非常に大きいと思う。

(委員) 3年半の活動のアンケートを取ってしっかりと分析していることが良いと思う。とはいえ数字で表れていない部分があり、事業運営評価調査業務報告書の94ページに「普及系事業は一件の規模が小さいわりに、丁寧な対応が求められ、入場料等の収入を見込むこともできないが・・・」とあり、この部分だけ見れば確かにそのとおりだが、長期的に見ていくとこの育成事業が鑑賞事業などに返っていく可能性が大いにあると思う。そういった部分を丁寧に追いかけていくと、長期的なエビデンスが築けていけるのではないかな。もう一つ、スタジオの利用率が最初から非常に高いのが、育成に基本理念を置いていることの一つの成果として表れているのではと思う。それから、このホールができてどのように変わったという定性的なアンケート、91ページの生活の変化のところ、何人来ました、どのくらいの入場料収入がありました、ということよりも、ここのホールに来たことによってどのような市民生活に変化があったかという項目を調査しているところが良いと思う。

(委員) 教育の分野で費用対効果を出すのは非常に難しいという話があったが、公民館でもサントミュージゼのワンコインでのコンサートで芸術に触れる機会がある、子どもたちが気軽に公民館に来て、その目の前で演奏を行い芸術に触れる、ではその効果をどう測るか、その人の将来を見ないとその効果はわからない、そしてそれを数字で示すのは非常に難しいと

考えている。サントミュージゼが出来たことによって、公民館は学習や自主的な活動を行う場所で、これまで公民館で芸術に触れることはあまりなかったが、ここができたことにより上田市には9公民館あるがそれぞれがいろいろな芸術に身近に触れることができるようになった。これは数字に表せない効果だと考えている。

(事務局) 運営管理計画の検討委員会として開館前に作っていただいた館のミッション、こういった事業を行っていくという館のミッションを開館後5年間事業として実施できているかという点はいかがか。数字的な部分も重要だが、ミッションどおり行われているかという検証も非常に重要なことだと考えている。

(委員) 運営管理計画検討結果報告書の内容をすべて達成するというのは難しいことだとその時から思っている。ただ、外部から見ている全体的な流れはミッションどおりではないかと概ね思っている。それぞれの事情でできていないことはあると思う。ミッションとして育成を掲げているが、その傍らには鑑賞したいとか、こういった作品を自分たちで創りたいという需要もあり、あらゆることをやっていたいかなければならない。その中で、育成を掲げて走ってきているというのは大変なことだと思う。これだけの規模の館で、育成を打ち出してここまでやっているところは日本中でそうはない。そういう意味で当初の計画の流れにはある程度出来ていると評価できると思う。先ほどから費用対効果など数字の話が出ているが、これだけの施設を作られて、これだけの事業をやるにはどうしてもお金は掛かる。それだけの費用をかけた数字には表せない効果は5年10年、下手したら20年かけて現れてくる。どうしてもこれだけの施設となると専門家が必要になる。資料を見ると舞台技術監督が空席になっていて大丈夫なのかと今度聞きたいと思っている。実際に運営してみるといろいろと足りない面とかがありこの人数になっていると思う、これでも本当に足りているのかと思うが、これだけの施設、良い施設になればなるほど掛かるものは掛かる。それに対しての効果、子どもたちがどのように育っていくかというのは10年20年かかっていくのでなかなかそれを数字的に評価するというのは難しいと思う。松本市のサイトウ・キネン・フェスティバルもかなりのお金を使ってやっているが、子どもたちが音楽に触れて、実際に子供たちが小澤さんに指揮してもらってとか、ものすごい時間とお金がかかるがあれだけの成功を取めているということがある。もしお金のことということであれば、貸館の使用料を上げなくてはいけない、でも今この値段だから皆さん使ってくださいという、このバランスがすごく難しい。いくらが適切なのかがわからない。

(委員) 今日のテーマとは違うかもしれないが、このアンケートは参加者の意見が書かれている、借りる側の意見は厳しいものの中にはある。対応はだいぶ改善されたと思うが、せっかくのいいものも実は陰でいろいろ言われているのはあんまりいいことではない、そういうものも改善していくと評価に大きくつながると思う。

(事務局) そういう方々のご意見を直接お聞きして改善していきたいので、ぜひご紹介いただき直接お話を伺いたい。一定の基準でお貸しし、同じルールでお使いいただいているので、個々の事例についてどういう状況なのかを改めてお聞かせいただき確認したい。ホール利用で稼働率が高く、市民利用者同士で競合し抽選で漏れる方が多く、漏れた方の市民の皆さんからホールが使えないという話が広がってしまうということは承知している。いずれにしても皆さんに公平にご利用いただいていると思っているので、改めてお聞きし対応していきたい。

(委員) 98ページの経済波及効果、産業連関表は何年表か、また国の表か県の表か。

(事務局) 経済波及効果の詳細については専門的なのでこの場でなく改めて提示ということでしょうか。

(委員) 了承

(委員) このサントミュージゼは上田市の施設ではあるが、この資料の評価は周辺市町村の皆さんの評価も入っているか。

(事務局) 40ページの居住地域にその地区ごとの比率が表示されている。

(委員) この委員会はサントミュージゼをこれからもっと盛り立てていくために検証して、さらな

る発展のための委員会という認識でよいか。(各委員を見渡して確認、各委員も同意) もちろん改善すべきところは改善すべきで、その改善がさらに盛り立てていくことにつながっていくといいなと思う。極端な例かもしれないが、日本の公立ホールの中で一番成功していると思われるのが、西宮にある兵庫県立芸術文化センターで、阪神淡路大震災の復興のシンボルとして建てられ、大中小ホールがあり、それが毎昼夜完売でお客様がフルでいらしているという信じられない現象を見せている。もちろんあの地域は芦屋など文化的なエリアと説明するにもあまりにもすごい状況が起きていて、なんでかと思えばやはり震災を経た方たちが文化を必要とするんだということが強く思われたと思う。もう一つ今、仙台が文化的に盛り上がり始めている。やはり震災を経て何年か経ち、必要とされる何かがあると思う。なので文化芸術は必ずしも衣食住が満ち足りた後に心の潤いのためにあるのではなく、本質的に人に必要であると。震災のような極端な時にならないと私たちは分からないが。上田で小学校 25 校回っているといろいろな小学校があり、子どもの中にも上履きがすごく汚れていたり、手を触ると手が冷たくて、朝ご飯食べていないかもしれないとか、いじめられて閉じている子とかいたりして、そういったところで音楽の活動をしたときにその子たちがちょっとでも見せてくれる笑顔にすごく希望を感じている。これは肅々と丁寧に未来に向かって大人が責任をもって自分たちのためにも子供たちのためにも未来のためにも行なっていくなくてはならない活動で、その拠点がこのサントミュージゼにあるということで、ここがさらなる、今日本のあちこちで行われている活動の一步でも二歩でも先を行くような活動ができるための話し合いができたらうれしいと思う。

(委員) 劇場の役割はその地域の課題に対して直面する場でもある。埼玉県の場合は高齢者と外国人がすごい状況になっていて、そういった方たちをどう交流しその地域に溶け込ませていくかが非常に大きな課題になっている。いま、高齢者に劇場に来てもらって、病院に行かないで劇場に来てもらおうということと、難民の方も含めて相当の数の外国人が来ていて、そこが大きな課題になっていて、特に川口市にクルド人の難民が 2,000 人も集まっている。そうすると外国人との交流は、食の場合もあるが、そのほかは文化を媒介としてやるしかない。いま埼玉は行政と一体となってそこに取り組んでいる。でもサントミュージゼは今、子どもに未来への投資をしている。だからそれぞれの劇場が、それぞれの社会的な課題を少しでも解決まではいかないとしても、地域の人たちと一緒に考える場になりつつあると思う。こちらの場合は子どもたちへの未来への投資だと思えば、何年かかっても子供たちは帰ってくると思う。今度その子どもが自分の子どもを連れて帰ってくると思う。そういう循環する広場の役目があつてうらやましいなど、高齢者と向きあっていて子どもたちができていないのでそんな風に思っている。

(事務局) 今後 4 回予定し、各回設定いたしましたテーマごとに議論を深め、今までの事業の検証を行っていただければと思っている。

(市長) 長時間にわたるご議論など感謝申し上げます。運営を開始して一定期間を経た後に事業評価を行うことが当初から計画され、また議会からも事業評価を行ったうえで事業費等の検証を行うとされておりこの委員会が立ち上がっている。計画段階から一定の経費が掛かるのはやむを得ないと承知しているが、どれぐらいまでが適正なのか、上田市がこの先文化を向上させていくのに必要であれば我々はやらなくてはならない、そのところをどう考えていくのか、皆様のご議論を通じて考え、お応えしていきたい。様々なお立場の皆様から、これからの上田市の文化や文化行政の向上育成、サントミュージゼの理念と向きあう中で、時には泥臭い話も良いと思うので、忌憚のないご意見を出していただきたいと思います。